



天ネブ

札幌天文倶楽部会誌

2006-64号

## 皆さんのお便りコーナー



こんにちは。川口裕美です。昨日、会報デネブ第 63 号が届きました。有難うございます！届く前に HP で読んでいたのですが、やっぱり、紙は良いですね。早速、午後のアフタヌーンコーヒー(?)を飲みながら、ゆっくりと読ませて頂きました。

写真は HP の方が良いですが、私は紙版が好きです。新年会のレポート、書けずにすみません。会長の「桃の天然水」や「ラジオ」の話、他、面白そうなのに子供が暴れ回っていたので全然聞けず、とても気になっていました。雪祭り大通り会場でタダの「桃の天然水」をもらったので、更に話の内容が気になっていました。加賀さんのレポートを読んで謎(?)が解けました。

話は変わりますが、新年会の数日後、桜来と旦那が同時にインフルエンザにかかりました。病院でタミフル(特効薬)を処方されました。外国で乳幼児が副作用で死亡している例がある、あの話題のタミフルです。インフルエンザ脳症も怖いし、タミフルも怖いし、予防接種しなかったことを反省しました。さて、タミフルは「家に帰ったら直ぐに飲ませて下さい」とのこと。感染してから 48 時間以内に飲ませないと効果がないらしい。言われた通りに家に帰って直ぐに子供に飲ませると、その直後に激しい腹痛を訴えるではありませんか。「お腹が痛い」と泣き叫んだあと、高熱でボーッとする...の繰り返し。心配になって病院に電話してみると、「タミフルは強い薬だから、何か食べさせてから飲ませないとダメでしょ」と注意されました。看護師に食事は関係ないと言われていたので納得がいきません。しばらく桜来は苦しみましたが、一眠りすると落ち着きました。この話を旦那にすると、「俺は薬局でそこに水と紙コップがあるから直ぐに飲んで下さいと言われたよ」と、やはり食事は関係ないようです。インフルエンザ患者だらけの家。マスクをしてうがい・手洗いを徹底していましたが、その翌日、私も高熱が出てしまいました。てっきりインフルエンザがうつったのかと思ったら、私はただの風邪でした。安心しましたが、医者がかきと体内にウイルスが入っていると思うからインフルエンザの薬を出しますとのこと。ということで、家族全員で話題のタミフルを飲みました。インフルエンザは、今、流行っているようなので気をつけて下さい。

では、次に会えるのはエジプト皆既日食の報告会でしょうか。子供が騒がないように調教しておかなくては...

川口 裕美 e-mail: ZUA07552@nifty.com

受信日時: 2006年02月23日 15:44

今晚は。ようやく、少し春を思わせる日が続きましたね。その後お元気ですか？今日、会報 63 号が届きました。いつも有難うございます。HP も見ましたが、智

秀と子供達との写真に笑ってしまいました。いつの間に隠し子を...。それはそうと、加賀さんのレポートを楽しく読ませていただきましたが、その中で、夜中のオリンピック観戦の為に赤くなった目が、ピヨヨヨ～ン！と飛び出た部分が有りました。当日私が聞き逃したらしい、会長が言ったという部分で、「佐藤麻子が 43 才」というくだりです。会長！私は真年ではあーりません！辰年です！「アルツハイマーかあ？私は」と、自分でも思う事が多く、大人のドリルでも買おうかと思っている今日この頃...これ以上...し、しかも二つも老けさせないで下さ～い！因みに、谷口さんも一歳老けさせられているような...。ま、谷口さんは優しいから何も言わないとは思いますが。って事で、宜しくお願ひいたします。(宜しくって、何がだろう。ま、いいか)

ところで、エジプト行きが約一ヵ月後になりました。皆既日食の準備は前日までバタバタするし、今回の参加者が少ない為か、まだ実感が湧きません。そのうち、機材等の打ち合わせが有ると思いますが、宜しくお願ひいたします。では、これにて失礼いたします。お休みなさい。

佐藤 麻子 okasa.28\_luglio-omot@jcom.home.ne.jp  
受信日時: 2006年02月23日 01:41

有難うございます。デネブ 63 号が届きました。屯田(我が家の周りだけ?)はひどい道で、車がそここで埋まっています。私も今年 2 回車が埋まっちゃい、人に助けられました。会長も(あの車はきっと大丈夫でしょうが)お気をつけください。会の行事等なかなか参加できず本当に申し訳ありません m(\_\_)m  
それではまた

中島 由美子

受信日時: 2006年2月23日 19:44

こんばんは、山田@東京島流し中です。4 月 26 日の観望会の件ですが、ぜひ手伝わせてください。そのころ札幌にいればですが...。今の仕事が“一応”3 月末までで、それ以降、どこで何をすることがまったく決まっていらない状態ですが...。というわけで、マーク X() 6.5cm)を持って行きますのでよろしく願ひします。

山田 将俊(Masatoshi Yamada)

E-Mail: trapezium\_orion@yahoo.co.jp

受信日時: 2006年02月27日 22:29

今晚は。画像有難うございます。こんな彗星が来ていたなんて、先日まで知りませんでした。尾が結構長いですね～！毎晩のように観測に行った、百武やヘル・ポップ等を思い出します。中旬まで見頃だそうで、なんとか観に行きたいです。余談ですが...、ネットに掲載されていた、毎日新聞記者が撮影したという彗星の写真は、ボケボケでした。「こんなもん載せるな～」ってか。ではまた。

佐藤 麻子

okasa.28\_luglio-omot@jcom.home.ne.jp

受信日時: 2006年03月08日 18:05

こんにちは。川口裕美です。皆既日食の写真、有難うございます。成功おめでとうございます。ステキですね。私も行きたかったです。皆既日食、PCでライブで見えていましたが、すっごく太陽が細くなって、あ

とちょっとでダイヤモンドリングが見られそうという時に映像がブツリと切れてしまいました。「えっ？何で？どうしたの？早く映してよ！」とPCに向かって独り言。見逃したくないので焦りましたがダメでした。後日、そのHPを見ると、「何らかのトラフィック障害に会い、映像が途切れてしまいました」とのお詫びがありました。現地に行けず、ライブ映像さえも見られず、残念でしたよ。今日は、東保健センターで娘の三歳児健診があり、帰りにそこで働いている谷口さんに会ってきました。忙しそうで、あまり話せませんでしたが、谷口さんも「エジプト行きたかったよぉ～」と言っていました。では、写真のお礼まで。

P.S.名前を直せば見られますが、今日の日食の写真のファイルネーム(？)が、『jpg』の後ろに『 ) 』が入って『jpg )』になっていました。

川口 裕美

e-mail: ZUA07552@nifty.com

受信日時: 2006年04月10日 18:58

携帯でも見られる写真で送信していただき嬉しかったです。当日は歓送迎会の後、大通公園に戻りましたが、時間が遅かった為残念ながら皆さんの活躍は見られませんでした。天候にも恵まれたようですね、ただ少し寒かったみたいですが皆さん風邪などひかなかったのでしょうか？できれば次回は是非何かお手伝いができるとうと思っています。とりあえず今回の観測会の成功おめでとうございます m(\_\_)m

中島 由美子

受信日時: 2006年04月28日 11:25

こんにちは。川口裕美です。先日はお疲れ様でした。晴れて良かったですね～。お陰で、私もとても楽しい時間が過ごせました。ところで、あれは天文倶楽部の行事だったのですか？知りませんでした。道新文化センターの講座のお手伝いだと思っていました。この写真『今号の表紙』、会長、レーザー上手に持っていますね。「木星と土星の環を見よう」の打ち合わせ編のレポートを勝手に書いてできましたので送ります。本番編は、今書いている最中です。では、使えたら使って下さい。

川口 裕美 e-mail: ZUA07552@nifty.com

受信日時: 2006年04月28日 18:38

HAPPY BIRTHDAY!～お誕生日おめでとうございす～ m(.\_.)m 。朝からちょっとお天気が悪いみたいですが、予報では午後から晴れるそうです。今夜も撮影に行かれるのでしょうか？どうぞお氣をつけて。それでは素敵な一日をお過ごしください

中島 由美子

受信日時: 2006年05月01日 09:56

こんにちは。川口裕美です。お誕生日おめでとうございす。51 歳も、健康で良い年になりますように 4 月 26 日のレポートが出来たので送ります。使えたら使って下さい。今月は父がまるまる休みなので、彗星を見に行けたら行きたいなと思っています。ただ、父が連休後に一週間位東京に行くとっています。用事があるわけではなく孫に会いにいくだけなので、のんびりしててまだ日にちは決まっていますが。私は明日から 6 日まで旦那の実家に帰ります。では、お体



ボイマンスキー彗星(C / 2 0 0 6 A 1) 2 0 0 6 年 3 月 4 日 2 分露出 3 0 0 mm F 2 . 8 フジファインピクス S 2 Pro ISO 1 6 0 0 追分町春日にて

に氣をつけてお過ごし下さい。

川口 裕美 e-mail: ZUA07552@nifty.com

受信日時: 2006年05月01日 11:54

観測会では、スタッフとしては役に立てませんが、逆の観測する立場(お客さんの立場)で楽しませただきました。大通公園で星を観るというのは、思ってもよらない経験となりました。また、写真を見ると、当日の参加者が熱心に質問していたことを思い出します。

加賀 栄一

受信日時: 2006年04月29日 23:44

北海道新聞で 26 日の天文講座のお知らせをみました。雨天でも講座が受けられるのは良いですね。ただ残念ながら私はその日は参加できません。本当はさくらにでもなって(というか、何かお手伝いできればよいなぁ)と思っていたのですが...、すみません。せっかく仕事も休み期間に入ったのになかなか自分の時間がとれず、うまくいかないです(；\_；)。エジプトでの皆既日食等のお話しも聞きたいところですがまたの機会に...。それでは三寒四温で本日は寒い日のようです、お身体に氣をつけてお過ごしください。

中島 由美子

受信日時: 2006年04月13日 12:05

道新文化センター主催で天文倶楽部が協力し実施する星空教室では、次回 7 月 2 8 日に札幌市郊外での星座教室を予定しています。皆さんの協力をお願いします





大通り公園での観察会準備のため阪野テクニカル工房に集まったメンバー、当日用のIDカードを制作した

## 道新文化センター札幌の 「木星と土星の環を見よう」打ち合わせ編

日 時：2006年4月23日（日） 13時～17時

場 所：宮の沢 阪野テクニカル工房

参加者：渡辺和郎会長・阪野文昭顧問・佐藤智秀幹事・神島麻子・川口裕美(以上5名)

川 口 裕 美

### 久々の例会

4月26日（水）私は水曜日が仕事休みの父に娘の“桜来”を預け、会長が講師をしている道新文化センターの講座（観察会）のお手伝いをするに決めた。その打ち合わせを4月23日（日）の13時から阪野テクニカル工房で行うとのこと。13時に間に合うように桜来とお昼ご飯のおにぎりを作る。お茶碗にラップを敷き、お塩をパラパラ。ご飯をよそい、梅干を入れて更にご飯でフタをする。最後にまたお塩をパラパラ。後はラップの四隅を持ってねじり、ニギニギ。この全工程を桜来にやらせてあげる。桜来は自分でにぎれるのが嬉しくて、このところ毎日昼食はおにぎりなのだ。おにぎりを桜来と食べ終え、そろそろ家を出る時間。なのに、年度始めて忙しくて連日深夜に帰ってくるからか、旦那がなかなか起きてこない。その旦那を桜来に起こしに行かせる。「パパー、朝だよ～！起きなさい～！」いや、もう昼なのだ。後は任せたと一人黙々と身支度をした。家を出る間際になって、旦那がチャイルドシート（私の車に載せてある）を置いていってくれという。余裕を持って家を出る予定が、バタバタして遅くなってしまった。暴走気味に車を走らせる。その甲斐あって(?)13時少し前に工房に到着。阪野車と会長車、他、知らない車が一台停まっていた。阪野車の前にピッタリと車を止める。久しぶりに会える嬉しさを胸にドアに手をかけたが鍵がかかっていた。あれっ？入れ

ない。自分の間違いかと思い何度かガチャガチャしてみたが、ドアは開かなかった。工房の電気はついてるのに変だ。うーむ、困ったぞ。そうだ、チャイムを押そう。そう思い、チャイムがないか郵便受けやドアの周りを探してみる。あれっ？チャイムが無い！別の場所かと、キョロキョロしながら壁のあちこちを探していると、庭で作業をしている隣の家のおじさんと目が合ってしまった。不審者と間違われたらイヤなので、とりあえず「こんにちば～」と笑顔で挨拶を試みた。おじさんも「こんにちば」と答えてくれたが、「この人、怪しい...」という目で私を見ていた。チャイムはないようなので阪野氏に電話をして助けを呼んだ。どうやら、鍵を開けておいたのに、ギター教室で練習をしていた人たちが鍵をかけて帰ってしまったとのこと。出入りする時には鍵をかけるというルールがあるらしい。鍵を開けてもらい、ようやく中に入ると、会長と私の知らない“おじさま”が一人いて雑談していた。

### 知らないおじさん？と蕎麦を食す

川口「こんにちば。お久しぶりです」。会長「おう、やっと来たか…。メシ喰ったか?」。川口「はい、食べてきました」。会長「ありや、メシ喰ったとよ。お前来たら、皆なでメシ喰いに行こうと待っていたんだ。俺、腹減ったよ。どうする?」。阪野「蕎麦なら入るでしょ」。川口「え?」。会長「お前に蕎麦をご馳走してやる。それで26日の報酬はチャラな」。ということで、私は二度

目の昼食を食べることになった。さて、肝心の打ち合わせには私一人しか来ないとのこと。会長「他は皆な用事があってダメだよ。お前一人だ。いい、あとで講座に使う資料のコピーを手伝ってくれ」。なんだか気が抜けてしまった。

阪野工房から歩いて 1 ~ 2 分のところにある蕎麦屋に向かう。ここは前に一度、阪野氏と私と桜来の 3 人で入ったことがある。イタズラ桜来が父のビデオデッキに紙やおもちゃの小物を突っ込んで壊してしまい、それを阪野氏に見てもらいに来た時だ。ビデオデッキはビデオテープの「取り出し」だけができない状態になっていて、「ひとりでうんちできるかな」だか何だか忘れたが、子供のトイレトレーニングのビデオが取り出せなくなって困っていたのだ。阪野さんがデッキを開け、手でテープを取り出してくれたのだが、テープを入れたり出したりするたびに「うんち」という文字が見え隠れし、何となく恥かしかった記憶がある。部品があれば簡単に直るということだったが、ヨドバシカメラで修理の見積もりを出してもらって「こんなにかかるの!？」というくらい高く、結局は父の了解を得て DVD も見られるものを買って弁償したのであった。

さて、店に入り、注文を済ませる。店内にはお客が 4 組位入っていた。知らないおじさま「日曜日なのに結構人が入っていますね」。阪野「日曜日の方が混んでいますよ」。家で食べてきたばかりで蕎麦が美味しく食べられるか心配だったが、その心配は少しずつ消えていった。会報デネブ 63 号 8 頁からの佐藤夫人のレポートにもあるように、この蕎麦屋は待ち時間が長い。しかも、先に入っていた客のどのテーブルにもまだ蕎麦は載っていないようだ。この長い長い待ち時間、会長は「ジブトに小遣いを 5 万円持っていったけど、5 千円位しか使わなかった。パンが 1 枚 1 円よ。世界は貧しい...」から始まって、竹島問題や真珠湾攻撃、愛国心を持つにはどうしたら良いか等、延々としゃべりまくっていた。それを、すっかり自己紹介のタイミングを失ってしまった私は「この向かえに座っているおじさまは誰?」という疑問を抱きながら聞いていたのであった。

蕎麦を注文してから何十分待ったのだらう。ようやく、知らないおじさまの「おもり」が運ばれてきた。続いて私の「もり」。会長と阪野氏の「冷やしたぬき大盛」はまだこない。「先に食べる」という言葉に甘え、お腹を空かせた会長には悪いが先に頂くことにした。長い待ち時間でお腹も丁度落ち着いた。良かった、良かった...。手打ちで太さの違う麺をズルズルとすすする。美味しい! 初めて来た時は桜来に食べさせるのが精一杯で、余り味わう余裕がなかったのよね。これで、お腹が空いていたらもっと美味しいのかな? と思いつつ、ひと口ひと口、良~く味わって食べていた。少しして会長と阪野氏の蕎麦が運ばれてきた。ここで、竹島問題の話は終了。一同、ズルズルと蕎麦をすすする。店内が静かになる。会長は食べるのが早いから私も早く食べなくてはと少し焦り出す。蕎麦湯と蕎麦茶が運ばれてくる。皆なが蕎麦湯を飲んでいる間に、全部食べ終えた。すご~く待ったのに、食べ終わるのはあっという間だった。

会長「俺、ご馳走してやる」と、伝票を手取る。知らないおじさま「いえ、お世話になったので私がご馳走しますよ」。阪野氏も「ボクが払うよ」と、伝票の奪い合い。結局、知らないおじさまが皆なの蕎麦代を出してくれることになった。会長と阪野氏は良いとして、私

は初対面である。しかも自己紹介もしていない身でご馳走になるなんてあつかましすぎる。会長は「ご馳走になれ」というが、ちょっと困ってしまった。会計の終わった知らないおじさまに、皆で「ご馳走様でした」とお礼を言い、工房までソロソロと歩く。工房の前には佐藤車が止まっていた。中に入ると、佐藤夫妻が待っていた。「お久しぶり~!」と盛り上がる。今日は日曜日、佐藤夫妻は二セコ方面を回ってきたようだ。そんな中、可哀想に「知らない女」の蕎麦代まで払ったおじさまは、工房に戻るとかばんを持ってサッサと帰ってしまった。最後まで自己紹介できなかった。失敗...。このおじさまは、後で聞くとところによると道新文化センター電気工作教室(?)の講師の先生で、阪野さんの紹介で佐藤氏が何度かその先生の代理をしたことがあるらしい。佐藤氏は受講生のおじいちゃんに気に入られ、すっかり仲良しになったとのこと。おじいちゃんとの半田づけ工作の思い出話をしている佐藤氏も、おじさまとは初対面だったようだ。蕎麦は、私ではなくて佐藤氏のご馳走になるべきではなかった? かといって、「おじさまの代わりです」と言って私が佐藤氏に蕎麦をご馳走するのも変だしなあ~。まあ、「おごり損」と「おごられ得」ということで一件落着?

---

## 佐藤語録と肝心の打ち合わせ

---

会長「これ、お前にやる」。川口「有難うございます」。CD をもらった。日食の写真がついている。6 月 13 日? どのだった? と考えながら見ていると、佐藤氏「あれだ。アラスカの...」。会長「アフリカだ!」。佐藤夫人「また出た、佐藤語録が。いっつもチョット惜しいんだけどね」。それにしても、カタカナに弱い佐藤氏。佐藤語録、インストラクターとイラストレーター、シートベルトとシートボルト、フードセンターとシーフードセンター、エクリプスとエキスプレス、レシピとレビシ、まだあるぞ、豚汁とブラジル、お言葉に甘えましてとお言葉にあっためまして...。言いたい事は分かるが、揚げ足取り軍団の前では格好の餌食になるので気をつけて下さいね。

簡単な打ち合わせが始まる。そうそう、私はこのために来たのよ。どんなお手伝いをするのか聞くと、荷物の搬入や望遠鏡の組み立て、荷物の見張り番などとのこと。これなら私にもできそう。当日は顔写真付きの名札を首から下げる。それと、待ち合わせ時間と場所が決まった。雨で中止の時は、生徒さんと一緒に会長の講座を聞けるようだ。会長が「それ、絶対忘れないでくれよ」と言いながら、名札を配る。会長「天文イラストレーターになっていないか、カミサンに何度も確かめさせたんだ」。良くみると、名札には「天文インストラクター」と書いてある。天文倶楽部の会員証と同じものかと思ったらちょっと違った。天文インストラクター? 質問されたらどうしよう...。案の定、質問されたら「私、知りません」とは言わず、「そのことについては... が詳しいので...」と、会長や佐藤氏にふつてくれと教えられた。どうしよう。「天文インストラクター」という文字があるだけで緊張する。川口「荷物搬入係にして下さい」。佐藤夫人「初心者マークつけるか」。川口「研修中とか」。「天文イラストレーターでもいいです」とも言ったが、会長に「バカ言ってるんじゃない」と却下された。講座の参加者から見れば、インストラクターは誰でも同じと見られる。それにしても、顔写真

は最近のものではなく、皆なそれぞれ倶楽部が創立された若い頃の写真でちょっと可笑しい。髪型が古臭かったり、顔がパンパンだったり…。私の“鮎政”で酔っ払っている時の写真で目のふちが赤い。これを首から下げるなんて恥かしいなあ。会長「当日は写真の記録係もいるな。誰か写真撮れるやついないか？それ専任でよ」。佐藤氏「この二人じゃだめですか？」と、佐藤夫人と私を指さしている。川口「私、撮れませんよ」。会長「(佐藤夫人を指差して)お前は？」。佐藤夫人「えっ？私が撮ってもいいんですか？」と、佐藤夫人が写真係を引き受けてくれた。会長「とりあえず、そんなところか。佐藤さん、皆なに知らせておいてくれ」ということで、打ち合わせ終了。

## エジプト皆既日食の話

打ち合わせも終わり、次はエジプト皆既日食の話題に移る。会長「(佐藤夫人に)写真見て思い出しながらレポート書けば…」ということで、阪野氏の PC で会長たちが撮ったエジプトの写真を見ることになった。太陽の写真が映る。画面が切り替わる度にどんどん太陽が細くなっていく。皆既日食、見たかったなー。会長が「黒点が見える」というと、一同「あ、本当だ」と声を上げる。でも、視力の悪い私には見えなかった。メガネ、そろそろ作り直さないとダメかも。会長「一枚、一枚、ゴミ取りしたんだ。全部やったぞ」。黒点とゴミを区別するため、当日の衛星画像の黒点を調べてからゴミを消していったとのこと。根気のいる作業である。エジプト観光の方の写真も見せてくれた。飛行機の中からフィヨルドが見えたとか、オーロラが見えたとか思い出話に花が咲き楽しそうである。会長「あそこ(カルナック神殿)にロープが張ってあっただろ。あれ、邪魔だから消しちゃった(画像処理で)。スフィンクスの首のところにも工事の脚立があっただろ。あれも邪魔だったから消しちゃった。どうだ？消した方がいいだろう」。会長は、立ち入り禁止のロープや柵などを画像処理して消したとのこと。初めに画像処理前の写真が出て、次に画像処理後の写真が出てくる。同じ写真なのにロープがあったりなかったりで「間違い探し」のようだ。会長が「ほら、あそこのロープがなくなっているだろ」とか、「これ、脚立があるだろ。見てろ、ほら、脚立がなくなった」と、自慢気に解説していた。写真を見せてもらっただけの私が言うのも変だが、スフィンクスにはガッカリだ。スフィンクスは首の補修のため、足元と首に工事用の足場があり、みっともない状態なのだ。足場を消した画像処理後の写真がとてもキレイで素晴らしい。この写真を信じてスフィンクスを観に行くと、「あれ？何でこんなところに足場が？確か、ここには何もなかったはず。ガッカリ」となるかもしれない。阪野氏も言っていたが、とっとと補修してしまえばいいのに…。

## エジプトの交通事情

会長と佐藤氏の撮った約 1,000 枚の写真を一気に見た。佐藤家のニセコのお土産(菓子)を食べながら、すごいと思ったのは車の運転の話。会長も佐藤氏もエジプトでは運転できないという。現地の人たちは、数十センチでも隙間ができると我先にとグイグイと突っ



上の写真が画像処理後、下が元画像

込んでいくという。信号はないらしい。会長と佐藤氏が「何か、暗黙のルールがあるんだろうな」と言っていた。ツアーバスも「ここは無理だろう？」という狭い道を通ろうとした時に車内で「えー！」というどよめきが起こり、そこをグイグイと進むとバスの中で拍手が起こったという。誰もが通行が無理だと思った場所を神がかりの運転技術で通り抜けたことに、感嘆の声が沸き起こったという。路面電車の線路の上に商売道具(?)や商品を出して、電車が来てからゆっくりと荷物を片づけるという写真にも驚いた。一見、狸小路みたいな商店街に見えるが、荷物の下にはちゃんと線路があるのだ。電車は停まっても文句を言わず、荷物が片づけられるのを待っているという。日本では考えられない。世界って面白い。

会長「次の皆既日食は 2008 年 8 月 1 日、ノボシビルスクだ」。佐藤夫人「またお金貯めなくちゃ」。川口「2008 年って、2 年後？」。佐藤氏「もう子供置いて行けるんじゃないか？」。佐藤夫人「行ける、行ける」。川口「誰か子供を見てくれる人がいたら行けますけど。お母さんがいればなあ…。佐藤夫人「うちの母はどう？」。預けてもいいなら預けますよ。その頃は腕白幼稚園児ですよ。父に預けるという方法もあるが、他人でも「お母さん」に預ける方が安心だと思うのは何故だろう？再来年、行けたら是非行きたいものだ。

講座のテキスト(?)のコピーを始める。会長「お前、暇ならこうやって折ってくれ」。コピーの音を聞きながら、ひたすらテキストを折る。途中、トナーが薄くなるハブニング。会長「あー、トナー振らないとだめだ。阪野さん、どうやるんだっけ？」。助けてもらおう。阪野



「トナー、注文しておこう」。会長「もう、トナーなくなるのか。そんなにコピー使っているの?」。阪野「渡辺さんが使ってるでしょ」。会長「...。すみません」。印刷が薄くて失敗したのをコピーしなおす。佐藤夫人も別のページを折る。最後に合体させて出来上がり。会報を出すときも、きっと会長が一生懸命コピーして折って...とやって下さっているんだらうなあ~と、ますます

す会報を大事にしようと思った。

天文インストラクターの名札を首から下げて、恒例の記念撮影。17 時過ぎに打ち合わせは解散となった。阪野さん、長々とお邪魔しました。

川口裕美 記

---

## 「木星と土星の環を見よう」本番編

---

川 口 裕 美

---

日 時：2006年 4 月 26 日（水）

場 所：大通公園西 2 丁目

参加者：渡辺和郎会長・佐藤智秀・神島麻子長内康志・加賀栄一・川口裕美

---

### 大通りでの観察会当日

---

4 月 26 日本番当日、私は朝から落ち着かなかった。首から下げる名札の「天文インストラクター」の文字がどうしてもひっかかる。本番前日に道新文化センターの HP で「木星と土星の環を見る」ということがわかり、木星と土星が見える位置や衛星の名前、その時間に出ている星座のことを少し勉強した。これで大丈夫かなあ...。本番当日も、木星や土星のことが載っている HP を立ち上げては読み返すということを何度も繰り返していた。打ち合わせの時、会長が名札以外は何もいらないと言っていたが、軽くて邪魔にならないので星座早見盤を持って行くことにした。14 時から 1 時間ちょっと桜来を外で遊ばせたら震えるくらい寒かったので、ネックウォーマーやスキー用の靴下、ババシャツにズボン下(年寄り?)、他、カイロも持ち、防寒対策もしっかりとした。そして、「質問されたらどうしよう...」という不安が消えぬまま、16 時 36 分発のバスに乗ったのだった。

同じ場所に 30 年以上住んでいても、終点までは乗ったことがない路線に試しに乗ってみた。「へえー、ここに停まるんだ」とか、「ここを曲がるのか?」とか、ちょっと観光気分を味わえた。終点がバスセンターの地下にあり、ちょっと驚く。地下鉄ならぬ、地下バス?こんなところにバス停があったのか...。テレビ塔前の東西に延びた通りの東の方に、バス専用の地下通路があるのは知っていた。そこは、バスの駐車場だと勝手に思っていたので、まさか路線バスがそこから地下にもぐるなんて思わなかった。この路線があるのは知っていたけれど、いつもバス乗り場が分からずに使ってなかった。いつも乗っているバスよりも夜遅くまで便があるし、バス停もこっちの方が家から近い。家から街に出る時は、始発から 2 つ目の駅なので必ず座れるから子連れでも安心。今度からこっちのバスを使おう。すっかりお気に入りの路線になってしまった。

さて、バスを降り、地下は薄暗くて薄気味悪いな~と思いながら帰りのバス乗り場を確認し、道新文化ホールに向かう。テレビ塔の時計は 17 時 16 分。空は青空が出ていて良い感じ。太陽の光を浴びながらゆっくりと歩き、17 時 20 分頃到着。佐藤さんの車はどこからくるのかな?と、周りの道路を確認した。目の前の道路は駅方向に一方通行だし、どう考えても南側のこっちから来るだろうと確信。だが、それとは反対の方

向から一方通行を逆進するような感じで会長が歩いてきた。会長「おう、佐藤さんの車、今、クルッと回ってくるからよ、ちょっと待っている」。待っていると、会長が来た方と同じ方向から佐藤夫人が迎えにきた。車まで歩き、乗せてもらう。打ち合わせ通り、大通り西 2 丁目に機材を降ろしていると、会長が「ここ(西 1 丁目側)じゃダメだ。あっち(西 3 丁目側)でやるぞ。まあまあ、いないから探したぞ」と、ちょっとご立腹。会長はサッサと道新文化ホールの方へ歩き出す。降ろした機材をまた積み込み、西 3 丁目側へ。私と佐藤夫人は歩いて移動。今度は西 3 丁目側の大通り西 2 丁目で機材を降ろす。降ろしていると、中島さんがやってきた。佐藤家から頼まれた物を持ってきたらしい。中島さんはこれから飲み会があるらしく、持ってきた紙袋を渡すと「じゃ~ね~!」と人込みの中に消えて行った。荷物を路肩に降ろし終えると、佐藤氏が「車を駐車場に入れてくる」と行ってしまった。私と佐藤夫人は 2 人しかいないので荷物を運ぼうにも運べず、シュラフに包まれた鏡筒やら木箱やらアルミケースやらの怪しい荷物の中で、通行人や信号待ちの車の人達にジロジロと見られながら佐藤氏を待つしかなかった。佐藤夫人が天文ジャンパーを着込んだ。加賀氏や長内氏も天文ジャンパーを着てくるというので、私も目印代わりにお揃いのジャンパーを羽織った。荷物だけでも充分過ぎる位怪しいのに、お揃いのジャンパーでより一層怪しくなった。

---

### 倶楽部メンバーが集結

---

今日、こんなに天気の良いのに 5 人もキャンセルした人がいるらしい。会長はそれでちょっと不機嫌だったようだ。加賀氏は勤務先がこの近くらしい。長内氏は車で来るらしい。そんな話を佐藤夫人から聞きつつ、待っている。結構、寒い。観望会が始まるまで外にいるのは辛いかも...。そう思っていると、加賀氏が到着。天文ジャンパーは持ってこなかったようだ。寒いけれど、人が増えて少し元気が出てきた。時間は刻々と過ぎてゆく。だが、待てど暮らせど佐藤氏は戻ってこない。いったいこの駐車場に入れに行っただろう?佐藤夫人が電話をかけると「向かっています」との返事。だが姿が見えない。向かっているってどこにいるの?川口「佐藤さん、遅いねー」。佐藤夫人「あっ、いた!」。見ると、望遠鏡を組み立てる場所を探していた。ビルや樹が邪魔で、どこに組み立てるか決めあぐねている



星が好きだという参加者には都会のせいか若い女性が多い。高校生が2名も参加してくれた

ようだ。とりあえず、佐藤氏が加賀氏に名札を渡す。川口「天文インストラクターですよ」。佐藤夫人「私、知りません。と言ったらダメなんだって...」と、対応の仕方を説明する。荷物を公園内に移動する。いよいよだと軍手をはめてお手伝いの準備をする。関係無いが、軍手には七星会の時の焼肉の汁がついていた。汚い。佐藤氏がテキパキと三脚を組み立て始めている。それを皆で手伝う。2台目の三脚を組み立てようとしたら、三角板が見当たらない。佐藤氏がまた車に戻る。三脚を押さえながらしばらく待つ。万が一質問されたら困るので、望遠鏡の使い方などをきちんと教えてもらおうと思っているのに、待ち時間ばかりでなかなか作業が進まない。加賀「皆さん、晩御飯食べましたか?」。佐藤夫人・川口「食べてないよ」。加賀「すみません。僕は途中でパン買って食べてきました」。川口「えー、ズルイ。お腹空いたよ。もう18時過ぎているから、いつもなら晩御飯食べているんだよねー」。寒いしお腹は空くし、ちょっとひもじい思いをしながら待つ。佐藤夫人「走れ...!と思ったら、走ったわ」。佐藤智さんが小走りで戻ってきた。作業再開。間もなく、スーツ姿の長内康志氏が到着。少し痩せたように見える。佐藤氏が名札を渡す。長内「顔がパンパンの頃の写真だ」。長内氏が天文ジャンパーに着替えるため、上着を脱ぐ。一同「寒いからスーツの上から羽織った方がいいですよ」。長内「そうか?」と、一度スーツの上から羽織るが、ジャンパーの下から上着が出るのが気に食わないという。川口「ホント、寒いですよ。上着、ズボンの中に入れたら?」。加賀「それ、暖かいかも...」。結局、長内氏は上着を脱いでジャンパーを羽織った。風邪だけは引かないようにね。

長内氏も加わり、あっという間に望遠鏡が組み上がった。長内「土星の衛星は何個だっけ?」。川口「47個じゃないですか?」。長内「えっ?そんなに増えたのか

? あー、48個だ48個」。川口「48個?昨日どっかのHPで見たら47個だったのに。折角調べたのにまた増えていたんですね。古い資料で勉強しても意味が無い。残念...。長内氏は、科学館のHPから印刷したという資料と、星座早見盤や双眼鏡も持ってきていた。今日のために予習もしてきたとのこと。偉い!

佐藤氏「双眼鏡で土星を探してくれ」。双眼鏡、やっぱり持ってくれば良かったな...と後悔する。長内氏が大小二つの双眼鏡を持ってきており、一つを私に貸してくれた。長内「60度位で南西の方角ですね」。皆な、長内氏の資料に頼る。佐藤氏「南はどっちだ?」。長内「いやあー、今日、方位磁針忘れてきたもんなー」。私はてっきり大通り公園は正確に東西に伸びていると思っていたのだが、どうなのだろう。とりあえず、分からないのでだいたい南西で、だいたい60度位の空を探すことにした。10、20、30...と、こぶしをかわるがわる積み重ねて60度を測り、自分が南西だと思う方角を探す。ないなー。どこだー? 空が明るくて、星が一個も見えない。ふと見ると、佐藤夫人は写真係の準備に入っていた。カメラを三脚にセットし、テレビ塔と望遠鏡が入る位置を探している。そして、「1秒で撮ってみた」と、試し撮りもしていた。良い行事記録写真が撮れますように! 私も少しでも役に立ちたいので再び土星を探す。途中、加賀氏に双眼鏡を渡し、肉眼でも探す。西の空が夕焼け色に染まってきた。相変わらず星は一個も見えない。あれ? 空が白い気がする。もしかして薄曇り? 観望会がちょっと不安になってきた。

まだ、誰も星を見つけられない。そもそも、こんなに明るい街中で星が見えるのか? 疑問である。それでも一生懸命探していると、長内氏が「あった、見つけたぞ! 北洋銀行の“洋”の字から20度位上」。川口「あっ、本当だ。ありました」。何と、肉眼でも見える。長内さん、スゴイ! 土星を見つけると一気に活気付く。



佐藤 & 長内氏が望遠鏡を土星に向ける。加賀氏は見つけるのに苦労していたが、何とか見つけられたようだ。望遠鏡で土星を見せてもらう。ついでに「これを回すのですよね」と、ピントの合わせ方も確認した。ピントを合わすとちゃんと環が見える。講座の人たち、喜ぶぞ～！ 長内氏は待ち時間中に人工衛星も見つけた。明るくて飛行機みたい。長内「飛行機なら光が点滅しているでしょ」。なるほど。因みに、木星の方は位置が低くて無理かもしれないとのことで、初めから諦めているようだった。

佐藤氏「北極星、探してくれ」。またまた長内氏の資料と星座早見盤に頼り、だいたいの位置を教えてください。北極星を見つけるには、まず北斗七星を見つけなくては…。七つも星があるのだから一つくらい見えてもよさそうなのに「ほくと」の「ほ」の字もみえない。そのうち、道新の講座の関係者らしき人が佐藤氏の元にやってきて、「受け付けが始まりました」だか「渡辺さんがもうすぐ来ます」だか、良く聞き取れなかったが、何かを告げていった。佐藤夫人「あっ、会長が来た！」。見ると、会長が受講生を連れてゾロゾロと歩いてくる。結局、北極星を見つけるのは間に合わなかった。

## エセ・インストラクター

どうしよう。来ちゃったよ。どうか、何も質問されませんように！ 会長と受講生が到着し、いよいよ観望会の始まりかと思ったら、会長が「おい、向こうでやるべ」と、望遠鏡を移動してしまった。佐藤夫人がせっかく良いアングルで構えていたのに、初めからやり直して可哀想だった。私と加賀氏は、アルミケース等の荷物を移動させる。そして、そのまま荷物の見張り番に徹する。望遠鏡の前では佐藤氏と長内氏がそれぞれ 6～7 名くらいの受講生を前に解説を始めていた。なんか、いい感じ。望遠鏡を覗いた人から「わー、スゴイ！

環が見えたよ、ラッキー！」と歓声が上がる。喜んでもらえて嬉しい。望遠鏡を覗く時に邪魔になるからと、受講生の人たちがベンチの上に荷物を置きにくる。この荷物も加賀氏と一緒に見張ることになった。メガネをかけている人から「望遠鏡を覗くときにメガネはどう

するのか？」という質問が出ていた。佐藤氏は「外しても大丈夫です」と言っていた。会長も「メガネがあってもなくてもピントは合うんだ」と教えてくれた。でも、乱視の人の場合はメガネがあった方が、像がキュッと引き締まってキレイに見えるのではないと思う。私もキツイ乱視が入っており、メガネを外すと月がやたらと大きく見えるし、一つしかない星も二重星、三重星のようにボワンと見える。私はメガネがないとダメだと思った出来事がある。火星大接近の時に、たまたまメガネなしで双眼鏡を覗いたら、火星に土星の環のようなものがついているように見えたのだ。メガネをかけるとちゃんと点に見える。結構、面白かった。そう見えたのは、ピントを合わせることで視力は矯正されても乱視は矯正されないからではないかと思う。でも、メガネをかけて双眼鏡や望遠鏡を覗くのは難しい。ちょっとメガネや顔の位置が動いただけで、すぐにピントがずれてしまうのだ。ということで、メガネの方には「裸眼とメガネ、両方試してみてください」というのが良いかもしれない。[編集注：双眼鏡でメガネをかけてピントが合っているなら、裸眼で合わないのはピントが合っていないからです。決して裸眼でピントが合わないことはありません]

空を見上げると、いつの間にか星がちらほらと見え始めている。街中でも星や人工衛星が見えることが、ちょっと意外だった。持ってきた星座早見盤をリュックから取り出し、テレビ塔の時計を見て日付と時間を合わせる。あの星はなんだ？ “ふたご”か？ ポツリ、ポツリと出ている明るい星だけでは、何の星なのか星座早見盤を見ても良くわからない。もうちょっと暗い場所で、星の並びが見えたら何かわかるんだけどなあ～。と、わからない言い訳をしてみるが、星が見え過ぎてどれがどの星なのかわからなくなってしまう私であつた。

佐藤氏がアルミケースを取りに来る。望遠鏡を覗く時の椅子の代わりにするようだ。長内氏も取りに来た。川口「持って行きますね」。荷物搬入係の私の役目だと思い、長内氏の望遠鏡の方に持っていったのだが、これが恐ろしい時間の始まりになってしまった。「椅子代わりに使って下さい」と、望遠鏡の前にアルミケースを



テレビ塔のすぐ西側、西2丁目広場が今回の観望会の会場となる。道新文化センター・ビルのすぐ南側が大通公園2丁目でもある。18時30分に教室で受け付けを開始、19時まで前説を行い、暗くなるのを待った。観望会は19時から21時まで行われた

置く。「これに座って見てもいいのね？あら、良かった。それなら楽でいいわ」と、ご年配のおばさまに喜ばれた。役に立って良かったと思うのも束の間、このおばさまから間もなく質問攻めにあうのであった。おばさまが望遠鏡を覗く。「あらー、こんなに小さいの？前は移動天文台っていうの？大きな車できたのよ。それで見たら、それは素晴らしかったのよ。今日もそれがくるのかと思って楽しみにしていたの。そしたらこれじゃない。でも、まあいいわ...」。長内氏が天文車オリオン号の話をする。土星を見終わったおばさまが私の方に向かってくる。「あらー、女性の先生は初めてよ。嬉しいわ。私、こういうのが好きで、いつもあちこち電話をかけて問い合わせしているの。するとね、男の先生ばかりなのよ。女性の方は今までいなかったわ。どうしたら女性でこんなステキなお仕事ができるの？いいわねー。やっぱり、初めはプラネタリウムとか？ステキねー。私ね、プラネタリウムは本当の星が大きく見えるところだと思っていたの。でも、行ってみたら全然違うからガッカリしたのよ。こんなに小さいじゃない。でも、いいの。星が見えるから好きよ。私ね、新川の奥に住んでいるんだけど、ここよりずっと星がキレイに見えるのよ。でも、天の川は見えないの。あなた、天の川見たことある？あるの！？いいわねー。最近はいつ見たの？天の川は冬でも見えるのかしら？そうなの？冬の方がキレイに見えるの？そうよね、空気が澄んでいるものね。そうしたら、はくちょう座の何と言ったかしら、そう、それぞれ、すぐ忘れちゃう、ダメね、デネブも見えるのかしら？そうよね、時間にもよるのよね。今でも星が動いているものね。ふ～ん、そう」。誰か助けてくれ～！私は先生なんかじゃないんだよー！ただの平凡主婦なんだよー！荷物搬入＆見張り係で来たんだよー！心の中で叫びつつ、おばさまの話に時々相づちを打ち、嘘がないよう簡単な質問にも慎重に答え、精一杯のひきつり笑顔で頑張った。決して難しいことは聞かれていないし、どちらかといえただけの世間話なのだが、「難しい質問されたらどうしよう」と、初めから逃げ腰で焦りまくっていた。ただ、会長が「俺や佐藤さんがいるから大丈夫。長内もいるしな」と言っていたが、その言葉は嘘じゃないけれど、限りなく嘘に近いということが判明。そう、会長・佐藤・長内氏がうまっている時に私に質問しにくるのだ。この後も、「あっ！佐藤さんが空いている！」と思って声をかけたら望遠鏡を覗いている人の対応をしているし、「長内さんが空いている！」と思って声をかけたら受講生に質問されたことを資料で調べている最中だしで、皆な、それぞれ受講生に対応していて誰にも頼れなかったじゃないですか！「エセ・天文インストラクター」の私は、「女性の先生は初めてよ」と、喜んで質問にきてくれたおばさまに大変申し訳ない気持ちでいっぱいだった。「もう、質問しないでね...」と祈るのだが、このおばさまの質問攻撃は更に質問内容がレベルアップしてまだまだ続くのであった。

## ピントを合わせる・の話

長内「これから、私がわざとにピントをずらしします」。受講生から「えー！」の声。長内「ピントがずれていますので、皆さんには実際に望遠鏡に触って自分でピントを合わせてもらいます。望遠鏡を覗くときは、なるべく目をカッ！と見開いて見て下さい。それからこのネ



ビルの影低くく木星を見つけ望遠鏡を向ける

ジを回して自分が一番良く見えるように調節してみてください。はい、ピントをずらしました。最初の方どうぞ」。長内氏の話し方は、聞いていてワクワクする。久しぶりで照れ臭かったと言っていたが、そんな風には見えなかった。「私は顔は悪いけど、目は良いので...」と、時々入るオヤジギャグも面白く、受講生は勿論、私も便乗して楽しませて頂いた。さすが長内さん！早速、一番乗りでピントをずらしてある望遠鏡を覗いた女子高生が、「わっ！おっきい！何これ？お月様みたいなのが見える！」と、驚きの声を上げる。お友達と一緒に参加しているようで、本当に楽しそう。終始笑顔でピントを合わせ、「できた！」と、満足気であった。この子、こんなに喜んで参加してくれて可愛いな～と思って名札をみると、私の娘と同じ名前の「さくら」ちゃんだった。一気に気になる存在になってしまい「さくらちゃんっていうの？私の娘もさくらって言うの」と、話しかけてしまった。さくらちゃんは、北星学園の制服姿で参加しており、ジャンパーではなくてカーディガンで羽織り、足元はズボンではなくてタイツのみでとても寒そうだった。川口「制服で来たの？寒いでしょ～。大丈夫？手袋はちゃんとしているんだね。私も手袋しているけど、軍手だよ」。さくらちゃん「あっ！軍手！今の高校生、結構軍手していますよ。特に男子は。サッカー部とか、外で部活している人も軍手してる」。川口「えー、そうなの？高校生って、もっとオシャレなのかと思った。じゃ、この軍手はOK?」。さくらちゃん「OKです!」。川口「足、寒いでしょ～」。さくらちゃん「あー、でもタイツだから大丈夫です」。川口「私なんて、ズボンの下にもう一枚穿いているし、スキー用の靴下も履いているんだよ」。さくらちゃんの友達「これ、見てください！私、スゴイ格好していますよ」。良く見ると、制服のスカートの下に長ズボンを穿いている。川口「あれ？これ、スカートなの？暗くて良く見えなかった。今の子はスカート短いね～。私の時はスカート引きずる位長いのが流行っていたんだよ」。さくらちゃん「知っています。スケパンですよ、スケパン!」。会長「何の話をしているんだ？ここは、星の話を聞きにきているんだぞ」。川口「星ならありますよ。ホラ!」。さくらちゃんのセーラー服についている“マーク”を見せる。会長「あっ、本当だ」。さくらちゃん「前にも星ついていましたよ」。川口「「ちゃんと、(制服)の話をしていました」。因みに、北星学園のこの星は、新約聖書の「暗い世にあって星のように輝きなさい」という言葉からきているようだ。星のように輝きたいが、銀歯くらいしか輝くものがない私であった。





木星の四大衛星や本体の縞模様を見て 21 時に終了

## は恒星だけにあらず

さて、このピントを合わせる待ち時間、例のおばさまが寄ってきた。おばさま「私、今日は持ってこなかったんだけど、これは(私が手に持っていた星座早見盤)、先生が科学館に行かないと手に入らないと言っていたの。これは科学館でしか売っていないのかしら?」。「宇宙に星がいっぱいあって、宇宙が動いているというでしょ? 変な話、星と星がぶつかるなんてことはないのかしら?」。これは、長内氏に答えてもらって解決。「この前、星に何かを衝突させて破片を持ち帰るというのがあったでしょ? あれは何といったかしら、そう、ディープインパクト! その破片がどんなにすごいのか楽しみにしていたのよ。そうしたら、な、前に、この前写っているのを見たら、そこら辺に転がっている石ころと同じみたいじゃない。ガッカリしたのよ。ホント、そこら辺の石とおんなじ。でもね、あれはどうして? 今、(長内)先生も言っていたけど、星は水素とかヘリウムとかのガスでできているのでしょうか? ガスに衝突させてって、どういう仕組みかしら。ガスなのにどうして石が取れるのかしら?」。ガスに衝突? あれ? 何の話? おばさまはディープインパクトのことを言っているの? それとも、シューメーカー・レビー彗星が木星に衝突した話をしていたの? 良く考えればシューメーカー・レビー彗星の話なんてこれっぽっちも出ていないのだが、「ガスに衝突」と聞いてパッと頭に出てきてしまった。もうわからない。たまたま会長を呼ぶ。会長「それは彗星だろ。ほうき星。彗星は氷でできているの。黒く見えたのは汚れだな。氷の周りにチリやホコリがくっついて出来ているの。あなたがガスと言っているのは恒星のことでしょ。星といってもな、色々あるの。恒星もあれば彗星もあるだろう。昔は区別なんてできないからパッと夜空を見て光っているものは皆な『星』と呼んだんだ。恒星も星。彗星も星。流れ星も星。輝いている人も『スター』っていうだろう。同じ『星』でもモノが全然違うのよ。おばさまは「うん、うん」と、大きく頷きながら聞いていた。なるほど、私も勉強になりました。それにしても、知っているフリというのは難しい。「私、知りません」と言えたらどんなに楽だろう。口では「私、知りません」とは言わなかったが、うろたえた目と態度で完璧に「私、知りません」と言ってしまった。嘘がつけない正直者なのよね、私(本音か?)。また、おばさまに質問されて「知りません」と言ったら困るので、いそいそと別の場所へ移動して逃る私であった。佐藤夫人の元へ行くと、たくさん撮っ

た写真を確認しているところだった。佐藤夫人「分からないから沢山撮っているの~」。佐藤夫人は寒くて震えていた。人だかりから離れているせい、望遠鏡の周りよりもグッと寒い。ただでさえ寒がりののに可哀想だ。持ってきたカイロを渡すと喜んでくれた。風邪引かないでね。

## 星の解説は続く

各自のピント調節もそれぞれ終わり、残った時間を土星の衛星を見つけたり、火星や二重星(ミザール・アルコル)等を入れたり、双眼鏡を貸してあげたりして受講生に見せていた。双眼鏡を覗いていた高校生が、「自分の目が映ってる!」と、やたらとウケていた。北斗七星を探す時、長内氏が「市役所本庁の 20 度位上」と、こぶしを使って 10 度 20 度と測る方法を説明し、受講生は皆な感心していた。私も近くにいたさくらちゃん達に、「90 度で真上になるはずだよ」と、一緒に実践して楽しんだ。が、さくらちゃんの 90 度はどうもイナバウアーになってしまうようで、「あれ? あれ?」と、何度も挑戦していた。火星も「赤い!」と、喜ばれており、例のおばさまからは「火星は赤いでしょ? ということは、年寄りの星なのかしら?」と質問が出ていた。因みに、火星は年寄りなのではなく、土の色が赤いとのこと。へー、そうなのか。全く知識のない私。会長「あれは、ふたご座のカストルとポルックスだ。ポルックスが弟で兄はカストル。見たら、カストルの方が暗いだろう? ポルックスとカスツとるで、兄貴の方が性格が暗いって覚えるんだ。なるほど、カスツとるか。勉強になる一日だ。私も受講料を払わないといけなような気がしてきた。受講生「あの一、すみません。カペラってどれですか?」。川口「カペラですか? えっと、ふたご座よりも右の方に見えていると思うんですけど...」。星座早見盤を見ながら一生懸命探す。ない! ないぞ! 何でないの? 川口「佐藤さん! カペラはどこに見えていますか?」。佐藤「あっちだ」。運悪く(?) 私たちのいる場所からは見えないところにカペラが光っていた。ちょっと場所を移動し、木の陰から覗く星に「あそこで光っているのがカペラです」と答えた。ふう...。受講料を払って参加した方が精神的に良いような気がしてきた。

「人工衛星が見える!」。なんと、あのおばさまが発見。川口「あ、あった」。会長「どこよ」。川口「今、北斗七星に向かっています」。会長「あー、本当だ。おい、人工衛星が見えるぞ」。さくらちゃん「あー、見えた! 速~い!」他の受講生も「人工衛星、初めて見た!」とか、「スゴイ! 人工衛星って肉眼で見えるんだね」と喜んでいいる。これで、この講座のお得感が UP したのではない。少しして 4 人の男子の専門学生が乱入してきた。特別に(?)望遠鏡を覗かせてあげると、「スゲー!」と歓声上がる。皆な、星に興味を沸いたようで喜んでた。あのおばさまも、「さっき、人工衛星が見えていたのよ」と、学生に自慢している。すっかり乱入者と仲良くなったようだ。

## 長内先生、頑張る

会長と加賀氏が望遠鏡の周りを離れて 1 丁目側の方をうろうろしているのがみえた。加賀「会長に木星を探させて言われて探していました」。会長が木星を見つけ



望遠鏡を移動させる。川口「どこ？」。加賀「ありました！あそこ！」。教えてもらって見ると、高いビルとビルの間に出ているではないか。しかも、木星のすぐ下には低い建物がある。こんな絶妙な場所に見えるなんて、運が良いとしかいいようがない。木星が見えるということで、また活気付く。受講生は勿論、専門学生のグループも一緒に移動する。長内「申し訳ないけれども、君たちは最後ね」。専門学生「そりゃそうだ」。でも、待てば見せてもらえるということで、喜んで待っているようだった。会長はこの専門学生に天文倶楽部に入らないかと勧誘していたらしい。[編集注：違えます。有料受講者の邪魔にならないようにあしらっていたのです]さて、荷物の見張りがいなくなったら困るので、荷物の方へと戻る。加賀氏としばし雑談。楽しいひと時を過ごす。佐藤氏がアイピースを取りに来る。テレビ塔の時間を見ると、20時32分。川口「あー、いつもならもう寝ている時間だー」。佐藤氏「あぁ、そうか」。加賀氏「うちの場合、もう少しで僕の時間なんです。9時になったら佳苗が子供を寝かせにいくから」。佐藤氏「ムフッ！そうか。まぁ、子供がいると色々あるわな」。子供中心の生活も悪くはないが、夜、出歩けないのが悲しい。久しぶりの夜の街。この場にいただけでも何だか嬉しい。今日は都合が合って参加できてラッキーだな。楽しい時間を作ってくれた父と娘に感謝しなくては。今度は長内氏がアイピースを取りに来る。長内「これは何ミリだ？」と、懐中電灯で照らして目を細める。川口「私、読みますよ。G・T・O...」。長内「えっと、6ミリか」。川口「あ、GTOじゃなくて五藤(GOTO)だった。間違っているし、変なところ読んじゃった」。さすが、エセ・天文インストラクター。マヌケな私。長内氏はアイピースを持って何故か「畜生...佐藤さんめ」と言って戻っていった。加賀「長内さんって、前にプラネタリウムの解説員をやっていたの？」。川口「そう。2年間天文係にいたはず。声が良からプラネの解説聞いていたら気持ちいいですよ」。加賀「さっき、長内さんが『畜生』って言っていたけど、本当はあんな感じの人なの？」。川口「畜生は口癖じゃないかな？『畜生』とか、『コノヤロー』とか、良く言うよ」。加賀「たまに仕事で会うけれど、仕事の時のイメージとは全然違うね。仕事の時は『ハイッ！ハイッ！』って感じなんだけど。イキイキしてるね」。言われてみると、長内氏は楽しそうに受講生に應對している。でも、科学館にいた頃もこんな感じだった気がする。今、長内氏は朝7時前後に家を出て、夜は23時過ぎに帰るという生活をしているらしい。今日も仕事は山ほどあって、後ろ髪引かれる思いで参加したとのこと。忘・新年会や、次の日食の話をしたら、「忙しくてなかなか参加できないんだ。夏休みとか冬休みとか、皆なが休みの時が一番忙しいんだ。講座があるからな。この仕事をしていたら日食もしばらく無理だろうな。同じ公務員なのに、この仕事量の違いはなんだ。まぁ、仕方ないけどな...」と、ちょっとぼやいていた。イキイキできる場に沢山出られるようになるといいですね、長内さん。そのためには、また会長に講座を開いてもらわなければ...。

## 現実夢をぶちこわす

会長「女の子泣かせちゃったよ...」。川口「ダメじゃないですか。何で泣かせたんですか？」。会長「あの子、将来、プラネタリウムの解説員になりたいんだってよ。

で、将来は星の世界でメシ喰っていきたいっていうから、そりゃ無理だって言ったら...泣いちゃった」。確かにそれはかなり厳しいかも...。会長は「あの子の夢、潰しちゃったよ。俺が夢潰しちゃった」と、責任を感じているのか心配そうに女の子の様子を見ていた。高校生だけど小柄で中学生位に見える女の子。もしかしたら、もう進路を決めて夢に向かって頑張っている最中だったのかもしれない。挫折しないでプラネタリウムの解説員になれたら聞きにいったあげるからね。

受講生がポツリポツリと帰り始める。会長「さぁ、もういいか。終わりにするぞ」ということで、21時丁度、本日の講座は無事に終了。荷物を取りにきた受講生が、荷物番の私たちにも「有難うございました」と言って下さる。「有難うございました。気をつけてお帰りください」と、加賀氏と二人で頭を下げて見送る。長内「寄り道しないで真っ直ぐ帰れよ！」と、さくらちゃん達に声をかける。まるで、学校の先生みたいだ...って、本物の先生か。会長「これ、おじさんの名刺あげるからね。おじさん、星の世界ではちょっと有名なのよ。ここにアクセスしたら、エジプトで撮ったおじさんの写真がアップされるから良かったら見て。あぁ、あれもやるか」。会長が泣かせた女の子を気にかけて、精一杯フォローしている。会長「はい。これもあげるから。おじさんが撮ったのよ。いいでしょ、机のそばに貼っておいてね」。エジプトの皆既日食の写真ハガキをあげたようだ。女の子「有難うございます」。一緒にいたお母さんも「良かったわね」という笑顔で喜んでいるようだった。それにしても、会長が「おじさん、おじさん」と連発して言うのが聞いていて面白かった。

## 最初にしてはうまくいく

望遠鏡を片付ける。佐藤氏は車を取りに行く。会長「今日はどうも...。報酬、何もないんだ。だから、はい、握手」と、長内氏と握手を交わす。会長「どうだ？可愛い、若い姉ちゃんいっぱいいたべ？お前が喜ぶと思ってよ、集めておいたんだ」。長内「いやぁ...」と、お互いニタニタしながら肩を叩き合っていた。会長「それにしても嬉しいよな。皆な、友達とかに声をかけてくれて集まってくれたんだ」。そうだったのか...。声をかけられた友達も、土星や木星が見られて満足したのではないか。そして、これを機に少しは星に興味を持ったのではないか。これで観望会が曇りで中止だったら、ガッカリだったかも。晴れて本当に良かった。

片付け終わった荷物を道路沿いまで運ぶ。会長「あとはいいぞ。お疲れさん」。ということで、解散。加賀氏は地下鉄、私は長内氏が車で送って下さり、帰路についた。会長に「いてくれただけで助かった」と言われたので、機会があればまた頑張って「エセ・天文インストラクター」として参加しようと思う。

### 【表紙写真説明】

神島麻子(佐藤智秀夫人)さんが今回の記録写真を担当。50枚に及ぶカットを撮影してくれた。180万都市さっぽろの中心街『大通り公園』のテレビ塔前で、天体観望会を行うのは札幌天文倶楽部としては初めてのことでした。2台の望遠鏡を組み上げましたが、近いうちにズラッと5台くらい並べた壮観な観望会を実施したいものです。今回はそのいい練習台になったと思います。

久しぶりにメールと電話番号(携帯)を掲載します。変化のあった方は連絡ください

## Eメールを持つ倶楽部会員のアドレス

・ 渡辺 和郎	kazurou@bf.mbn.or.jp	・ 垣内 睦美	omutsu@pop06.odn.ne.jp
・ 佐藤 智秀	YTside2@ba.mbn.or.jp	・ 谷口 明美	virgo@bmail.plala.or.jp
・ 阪野 文昭	sakano@interlink.or.jp	・ 加賀 栄一	ekaga@seagreen.ocn.ne.jp
・ 神島 麻子	FZL05145@nifty.ne.jp	・ 渋谷 朋代	BZN03147@nifty.ne.jp
・ 長内 康志	y-osanai@interlink.or.jp	・ 今野 利秋	t0611kon@goto.co.jp
・ 矢吹 浩	h0535yab@goto.co.jp	・ 水口 円	m-tsubura@hat.hi-ho.ne.jp
・ 関口 朋彦	sekiguti@pub.mtk.nao.ac.jp	・ 川口 裕美	ZUA07552@nifty.com
・ 菊地さち子	kikukiku@lily.ocn.ne.jp	・ 小出 美穂	m-koide@ezweb.ne.jp
・ 川端 夕子	yuko.k@md.neweb.ne.jp	・ 山田 将俊	m-yamada@mc.kcom.ne.jp
・ 竹山すみえ	tsau49kmei511@docomo.ne.jp	・ 大井 亜紀	aki_o@nicsoft.co.jp
・ 木下 理恵	shinmugizugi888@docomo.ne.jp		

## 倶楽部会員の自宅電話・携帯電話の番号

・ 阪野 文昭 011-684-7408 携帯 090-8908-2153	・ 渡辺 和郎 011-892-2788* PHS 070-6317-2968
・ 垣内 睦美 011-898-8824 携帯 090-9514-0545	・ 川端 夕子 011-784-7872
・ 川口 裕美 011-753-9599*	・ 加賀 栄一 011-666-0574 携帯 090-7054-6892
・ 水口 円 011-894-5958* 携帯 090-5076-4664	・ 山田 将俊 011-694-4216* 携帯 090-8897-2235
・ 神島 麻子 011-897-8967 携帯 090-1526-3340	・ 中島由美子 011-774-4474 携帯 090-1387-2897
・ 谷口 明美 011-771-9777 携帯 090-9512-9006	・ 小出 美穂 011-831-3535* 携帯 090-2074-02 11
・ 佐藤 智秀 011-831-1459 携帯 090-8898-0904	・ 菊地さち子 0166-46-1077* 携帯 090-1643-9459
・ 竹山すみえ 090-7259-3723	・ 大井 亜紀

上の表が最新のものです。e - メール, 住所, 電話, 携帯, f a x の変更のあった方, 又は間違っている方は連絡ください。( \* F A X 兼用 )

## 73P / シュワスマン・ワハマン第3彗星





2006年4月28日23時51分 C核



2006年5月2日23時10分2枚合成 C核



【上写真】2006年5月7日朝、ヘルクレス座からこと座へむかう彗星。この時点では予報通りC核がB核より明るい。見栄えはC核で、写真の対象はC核の尾の成長に向けられていた。

【左写真】2006年5月8日の写真では突如、C・B核の明るさが逆転した。10日朝の写真ではB核がハッキリとし、C核は衰えたように見える。どうも国立天文台のスバルによる観測では3日頃にB核に分裂が起こりバーストを起こしたらしい。その状況が一般でも確認ができるようになったのが8日から9日にかけてのようだった。

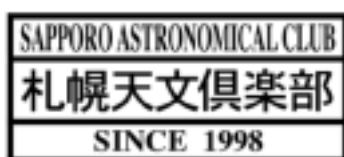
この日を境にC核からB核に興味の対象が移っていった。

渡辺和郎・撮影





2006年5月6日朝，ヘルクレス座を横断するシュワスマン・ワハマン第3彗星のC・B核（当別青山）



札幌天文倶楽部 会報「デネブ」 第64号

発行日 2006(平成18)年6月1日(印刷)  
発行者 渡辺 和郎  
編集委員 末澤朋代 今野利秋 川口裕美 神島麻子  
発行所 札幌天文倶楽部 事務局  
〒062-0933  
札幌市豊平区平岸3条13丁目1-16  
佐藤 智秀 方  
電話 携帯090-8898-0904